

～せと市民総ぐるみ防災訓練～
令和6年度瀬戸市総合防災訓練
総括

令和6年12月12日（木）

訓練報告検証会

1 訓練目的

瀬戸市

防災関係機関

市民等

参加

地震災害を想定した総合的かつ実践的な防災訓練を実施

市民の防災意識の高揚及び瀬戸市災害対策本部の体制強化を図る。

2 訓練概要

想定

南海トラフ地震発生

地域

安否確認訓練
避難所開設・運営訓練
情報伝達訓練 等

市民・地域が主体的に立案
「協働参加型」

市役所
本庁舎
等

災害対策本部運営訓練

情報ネットワーク・DX
の活用

3 訓練広報について

おうち防災訓練チラシの配布による事前周知

令和6年度瀬戸市総合防災訓練 ～せと市民総ぐるみ防災訓練～

「おうち防災訓練」に参加しよう！

日時: 11月17日(日) 午前8時から

場所: 各家庭で実施

安否札の掲出をお願いします!

南海トラフ地震が発生し、瀬戸市内で震度6弱の地震が観測されたことを想定し、おうち(各家庭)で全市民が参加できる訓練を実施しましょう。

安否札が掲げられていない場合、安否確認のためお声掛けすることがあります。(玄関のベルを押すなど)

訓練開始の合図について (次の手段で訓練開始をお知らせします!)

- ① ラジオ放送 [ラジオサンキュー (FM84.5)]
- ② ケーブルテレビ放送 [Green City (12ch)]
- ③ メール配信 [瀬戸市安全安心情報メール]
- ④ LINE配信 [瀬戸市安全安心情報メール (for LINE)]

【配信登録はこちら】

- ① QRコードを読み込み、空メールを送信 →
- ② 配信カテゴリで「緊急」を選択し、登録

ラジオサンキュー ホームページ

【配信登録はこちら】

- ① 瀬戸市 LINE 公式アカウントを友達登録 →
- ② 「受信設定」から、瀬戸市安全安心情報メール (for LINE) の「緊急」を選択し、回答



広報せと
11月号
に
防災特集
記事掲載

訓練開始の合図は
左記の手段で実施

4 訓練に向けた事前研修

令和6年度せと市民防災塾 7月6日(土) 午前9時30分から正午まで

第1部 (講演)

講師：認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 常務理事 浦野 愛 氏
演題：「令和6年能登半島地震から学ぶ、男女共同参画の視点を踏まえた防災対策、避難所運営」

第2部 (体験型講演)

- (1) 能登半島地震現地支援者へのインタビュー**
出演：災害ボランティアせと、瀬戸市役所危機管理課
- (2) 避難所チェックシートを記入してみよう！**
出演：防災ままのわ瀬戸、防災ネット・せと、災害ボランティアせと
- (3) 防災体操**
出演：防災ままのわ瀬戸
- (4) 防災クイズ**
出演：防災ネット・せと

4 訓練に向けた事前研修

令和6年度せと市民防災塾 7月6日(土) 午前9時30分から正午まで

参加者人数

280名(アンケート回答者183名)

参加者属性

自治会関係61名、一般参加19名、一般参加(学生)4名、防災団体関係9名、市職員49名、属性不明138名

次年度
取り上げてほしいテーマ
(全体)

1位・災害時のトイレ対策(83)

2位・避難所運営の在り方(74)

3位・災害時要配慮者の視点を取り入れた防災対策、
避難所運営等(70)

次年度
取り上げてほしいテーマ
(一般参加者のみ)

1位・災害時のトイレ対策(14)

2位・災害時要配慮者の視点を取り入れた防災対策、
避難所運営等(11)

3位・避難所運営の在り方(10)

3位・避難所での「食」(10)

5 訓練指標の結果

(1) 訓練参加世帯数

年度	安否札等掲出世帯		安否確認世帯 (安否札等掲出 + 声掛け安否確認)
令和6年度	20,232世帯 (54.1%)	→	<u>26,862世帯</u> (71.8%)
令和5年度	20,545世帯 (53.7%)	→	<u>26,406世帯</u> (69.0%)
令和4年度	19,594世帯 (50%)		—

※ 安否確認対象世帯数 … 37,423世帯

市内全世帯数 … 58,346世帯 (令和6年11月1日現在)

※ 表のパーセンテージは「安否確認対象世帯数」を分母として計算

5 訓練指標の結果

(2) 安否札等掲出率

No.	連区	安否札等掲出率
1	品野連区	78.9%
2	古瀬戸連区	65.4%
3	本地連区	64.5%
4	新郷連区	62.6%
5	西陵連区	62.0%
	全連区における 最小値～最大値	44.8%～78.9% (平均54.1%)

5 訓練指標の結果

(3) 安否確認率（安否札等掲出世帯＋声掛け安否確認世帯）

No.	連区	安否確認率
1	品野連区	86.42%
1	水野連区	86.39%
3	本地連区	85.7%
4	西陵連区	81.7%
5	新郷連区	80.0%
全連区における 最小値～最大値		58.2%～86.4% (平均71.8%)



※ 70%を超える連区が11か所ありました。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（1）安否確認訓練について（良かった点）

No.	良かった点
1	数度に渡る町内会長への説明、事前に安否札を再配布したため、意識付けが出来た。
2	安否確認訓練の意味を理解している方が増加し、掲出される件数が増えた。
3	安否札掲出世帯数等の報告・集計に当たっては、独自の様式を定めるとともに、組数が多い町内会の場合は、町内会長に情報が集中しないよう中間集計者を設けて行うこととしました。
4	安否札掲出状況の確認は組長のみで行うのではなく、組集合場所に集合した方々で手分けして実施することとしました。
5	日頃から自治会役員さんと町民の皆さんとのコミュニケーションができており、安否札等の掲出は良かったと思います。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（2）安否確認訓練について（反省や課題等）

No.	反省や課題等
1	訓練開始から報告までの時間が短く、きちんとおうち訓練をして安否札を確認したのか、疑問がありました。
2	5階建ての県営住宅においては、1階から5階までの各玄関を棟長が確認することとなっており、高齢な棟長からは全戸確認できないといった声がある。
3	安否札掲出率が徐々に下がってきている。
4	1町内会が会長の独断で、防災訓練に参加されなかったことが残念でした。
5	自治会未加入の安否札未掲出世帯に対しても何らかのフォローが必要になるのではないのでしょうか。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（3）自ら避難が困難な住民の避難行動支援訓練について（良かった点）

No.	良かった点
1	応急担架（毛布と物干しざおを使用）の作り方を消防分団員に指導してもらった。
2	組集合場所に集合した方々で「組の中に一人で避難できないなど、支援を必要とする人はいないかな？」をテーマに話し合ってもらったことにより、地域で助け合う意識の向上に取り組みました。
3	避難困難者の方が、自ら訓練に参加希望していただけたことで、前向きな訓練が実施できた。
4	高層住宅にて行いました。エレベーターを使わず避難器具（イーバックチェアミニ）を使った訓練を行いました。組長だけでなく、一般住民にも参加していただけたのでとても良かった。
5	福祉施設と連携できたこと、実際に支援を必要とする方々が参加して看護師、福祉士、防災士を含む「救護班」が協力して活動し、重要な課題を発見したことは至宝。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（４）自ら避難が困難な住民の避難行動支援訓練について（反省や課題等）

No.	反省や課題等
1	今回は実施しなかった。※ 複数あり
2	避難困難者の中には、「面倒くさい」とか「迷惑を掛ける」といった理由から訓練に参加しない方を説得できなかった。
3	サポートする側の量・質とも体制を強化する必要がある。
4	実際の場合を想定して、各町内から避難困難な住民の避難行動支援をすることが望ましいが、今回はできなかった。
5	レスキューシートのみで行なった為、多くの方に体験していただけなかった。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（5）避難所開設・運営訓練について（良かった点）

No.	良かった点
1	はじめて参加する方が多かったが、自主防災リーダーが中心となり時間内に開設することができた。
2	応急トイレ（凝固剤タイプ）の使用訓練を実施し、避難所におけるトイレ対策の重要性とともに、各家庭での備えの大切さを啓発しました。
3	訓練主体となる連区の防災協議会スタッフへ事前説明会での役割は全員が認識しており、開設作業はスムーズに行えた。
4	小学校の工事に伴い、今回の避難所が中学校体育館に変更になり、避難経路を新設し、幹線道路の横断や体育館の位置確認などの課題が抽出されたが、当日に防災リーダーを各所に配置することにより大きなトラブルなく避難訓練ができた。
5	今回の避難所開設訓練は、自主防災リーダー、防災委員、各種団体長が集まり、3班に分かれ、役割分担をしっかりと行い安全管理を徹底して実施した。災害は予告なしで起こるため、事前準備はせずに行った。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（6）避難所開設・運営訓練について（反省や課題等）

No.	反省や課題等
1	出席している人が例年と同じで、なれた感じがします。これが良いのか？新しい形の参加が必要か？
2	一般の方たちの参加が少なかったので多くの方に参加していただけるよう周知の仕方を考えたい。
3	備蓄資機材の取り扱い訓練にとどまり、本来行うべき実践的な避難者の受け入れ訓練等には至っていません。避難所開設・運営訓練の手引き（訓練メソッド）のようなものがあると、全市的に取組みやすくなるのではないのでしょうか。
4	もっと住民主導の訓練（特に避難所開設可否判断など）にした方が良い。
5	避難所が開設された場合、ボランティア者が何をしたいのか分からないのはいけないためマニュアル化しておくことが必要である。

今回実施した訓練で明らかとなった課題について、瀬戸市自治連合会（防火・防災部会）とも意見交換しながら、次年度の訓練を企画します。

7 災害対策本部運営訓練

訓練内容

災害対策本部運営室を本庁4階大会議室に設置し、災害発生時に想定される被害通報等の様々な情報に対し、災害対策本部の各部班が連携をとりつつ迅速で的確な判断を下す図上シミュレーション訓練を行いました。

成果

各連区の地域防災訓練に67名、本庁の災害対策本部運営訓練に107名の市職員等が参加しました。

災害対策本部における、被害状況等の全容把握及び対応方針の決定等をポイントとして訓練に取り組み、各部班が被害情報を他部と情報共有し、全体の被害状況をマップ上で分かりやすく見える化することができました。一方で、集計表への入力方法や取り扱い等の課題が見えてきました。



8 関係機関との連携

関係機関名	連携内容
(株)尾張東部放送	「ラジオサンキュー（FM84.5MHz）」の特別番組放送による防災情報啓発
グリーンシティケーブルテレビ(株)	L字放送による防災情報啓発
瀬戸旭医師会 (瀬戸旭在宅医療介護連携推進協議会)	「瀬戸旭もーやっこネットワーク」を活用し、要援護者の安否情報を共有する防災訓練 (災害対策本部に情報提供し、指示を受けた。)
瀬戸アマチュア無線クラブ	アマチュア無線の通信訓練
災害協定締結ホテル	避難者受入のための情報伝達訓練
三和紙工(株)	簡易給水槽の設置・給水訓練 (令和6年5月11日 自主防災リーダー研修会にて実施) (令和6年10月20日 道泉・祖母懐連区にて実施)